

新年に入り、感染爆発という言葉が報道でよく聞かれるようになりました。首都圏の新型コロナ感染症専用病床の利用率は上昇をし続け、医療スタッフは感染への恐怖や過度の勤務によるストレスが離職が続いている。

久万高原町立病院でも発熱外来を設置し対応しています。発熱外来は陰圧化し、感染がおこらないようしっかりと計算された環境を整えまし

た。ちょっととした風邪や発熱であっても「もしかしたら?」と不安になると想いま

す。心配になれば必ずかかりつけ医に相談してください。か

かりつけ医がなければ県の受診相談センター（☎089-909-3483）まで連絡くだ

さい。医療業界の話になりますが、医療スタッフが発熱を起こした場合、いろ

いろなプレッシャーが本人に押し掛かり、過度なプレッシャーでストレスは尋常で

あります。地方移住のキーワードはテレワークとオ

ンライン診療が挙げられます。町内の光回線整備に伴い、テ

レワークをしながら自然の中で心豊かな生活をしたいと考えられる環境も整っています。

その検査を行っているのが私たちです。レントゲン技師とかレントゲンの先生とかいわれることが多いですが、正確には診療放射線技師といいます。

放療線室は、単純X線撮影（レントゲン）やCTなどの画像診断装置を用いて撮影を行う部門です。

当院では2人の放射線技師で、通常勤務帯の撮影業務と夜間・土日の緊急撮影業務を行っています。

## 当院放射線室の主な業務

- CT撮影
- 単純X線撮影
- ポータブル撮影
- X線TV

CF（大腸ファイバー）や胃瘻交換などの補助をX線TVを用いて行っています。



## 4 放射線室の紹介

### 診療放射線技師 山澤 正彦

放射線領域の発展は

日々進歩であり、高度な医療機器の開発、デジタル技術の発展、画像処理技術の向上など、急速な変革は今もなお続いている。しかし、高い医療画像提供による診断精度の向上、医療被ばく低減等「患者中心の医療」を目指し、技術と質の向上に日々努力していくたいと思います。また、地域医療で頑張る当院の手助けが少しでもできればと思っています。



## focus



事務長 大政 前号にて紹介がありましたように、久万高原町でコミニナスティナースが活動し始め今年で4年目にあります。私は、急性期病院の消化器外科病棟で勤務しているなかつた」と聞くことがよくありますから「おかしいと思つても相談する人がいなかつた」と聞くことがよくあります。そこで、地域の身近なところで看護師が介入できないのかと思い、大好きな地元の久万高原町で地域おこし協力隊の

地域に出て住民さんの血圧測定をするところですが、「飲んでた薬をやめた」と話されるので、定期受診や内服の必要性を説明すると、その後受診して頂けました。この様な事をとおして、看護師がより近い存在で、地域に出向くことの意義

を日々実感しています。また、住民さんと話していると、こちらも元気をもらつ事ができます。他にも、中間支援組織ゆりラボと協働し、コミュニケーションニティナースとして何ができるか模索しながらまちづくりに関与しています。それぞのメンバーが、様々な活動をし

ています。みなさんに生きがいを感じてもらうのを感じてもらうのが、私の生きがいであります。これからも、みんなさんの生きがいづくりをお手伝いさせていただきたいと思います。



Facebook  
<https://www.facebook.com/KumakogenCommunityNurse/>